



日本応用心理学会認定  
応用心理士 ニュースレター No.2

1997年8月30日

〒161 東京都新宿区下落合1-7-7  
富士短期大学応用心理学研究室内  
応用心理士事務局  
ニュースレター編集部

---

目 次

応用心理士の課題と展望 .....	中 村 昭 之 .....	2
応用心理士の課題と展望 .....	島 田 俊 秀 .....	2
応用心理学をめぐる諸問題 .....	恩 田 彰 .....	3
応用心理学の展望 .....	馬 場 房 子 .....	4
応用心理士になって.....	高 橋 敷 .....	4
応用心理士の役割 .....	高 橋 哲 也 .....	5
金文字鮮やか .....	和 田 全 弘 .....	5
認定応用心理士取得者名簿 .....		6
事務局より .....	岡 村 一 成 .....	6

---

## 応用心理士の課題と展望

日本応用心理学会

会長 中村 昭之



日本における心理学会の発展の歴史を考えてみますと、当初は日本心理学会と日本応用心理学会のみでありました。昭和16年その2つの学会は統合し「心理学会」となりその下部組織として基礎、教育、産業、司法、傷病保護、軍事の6部会があったといわれています。これらは大まかに基礎と応用にわけられると思います。当初から日本心理学会は大体において基礎的な研究が中心であり、日本応用心理学会は、その他の教育、産業、司法、傷病保護などの応用的な研究のすべてを担当していたと思います。現在いろいろなライセンスが出ておりますが、日本心理学会の「認定心理士」はどちらかと言えばそういう基礎的な面、例えば実験心理学などを含んだ資格ですし、日本応用心理学会の認定「応用心理士」はす

べての応用に関わる資格と思います。ここで大事な事は“すべての応用にかかわる”という事であり、ある特定の応用の領域に限定されないと言う事です。これからの日本の社会は目まぐるしく急速に変化・発展していくでしょう。それと同時にそこで生活している「応用心理士」に対する期待も変化していくし、新しい期待やニーズもどんどん生まれてくるでしょう。必然的にそういう期待やニーズに答えられる真に信頼のおける「応用心理士」がどのような環境においても求められる事になります。そこでは特定の応用の領域にとらわれない、“すべての応用にかかわる”「応用心理士」が求められます。では、どのような応用の問題もこなす「応用心理士」になるにはどうしたらよいのでしょうか？それには先ず心理学の基礎をしっかりと身につけておく事です。それが必要且つ十分な条件です。基礎的な原理や知識や技術の延長にすべての応用の問題があるのです。「応用心理士」の中には基礎的な原理、知識や技術に比較的弱い方もおられるかも知れません。そういう方は特に基礎的な問題の習得に心がけて下さる様お願いいたします。(駒澤大学教授)

## 応用心理士の課題と展望

島田 俊秀

「応用心理士」の資格制度は、1993年第60回日本応用心理学会(鹿児島大学教育学部)の運営委員会及び総会で日本応用心理学会認定「応用心理士」認定の制度に関する諸規則・細則が承認され、その後正式に制度化し運用されるようになりました。応用心理学会が、学会活動の一環として1950年、他の心理学関係学会に先駆けて、この種の資格制度の必要性を提案して以来40年有余の歳月が経過しました。この間に「臨床心理士」、「認定心理士」の資格取得制度が発足しました。これらの制度は、一定基準の試験に合格することや心理学に関する所定の単位を

習得することを資格取得の要件にしています。

ところで、認定「応用心理士」の資格を取得するためには、認定制度に関する規則(第4条1項、2項、3項)に定められているように、本学会の会員であること、「応用心理学研究」に研究論文を發表していること、大学において心理学専攻またはそれに準ずる学科を卒業していること、応用心理学と関係があると認める専門職に従事していることを要件とし、他の心理学関係学会の資格要件とは、違いがあります。このことは、本学会が資格制度の必要性を提案した当初から問題になったことでもあり、規則(原案)の作成に当たって3年の歳月と労力を費やして検討した結果です。

わが国は、高齢化、国際化、複雑化、そして変化

の激しい社会に直面しています。この時期に、心理学またはそれに準ずる学科を専攻した大学・短大卒業生は、教育・福祉関係、人事・労務関係、医療・看護関係、司法矯正関係、交通・災害関係等多方面の職種に従事するようになりました。また、現代の社会にあっては、あらゆる生活の場で、心理学的な思考や資質が求められています。

「応用心理士」の資格取得者は、個人的には心身ともに調和がとれ健康であること、社会人として職場においては、適応的で職場の建設的構成員であること、さらに指導者としては、それぞれの場におい

て一人一人の適応状況を見分け、さらに進化増進させるように心がけ、不適応を起こしている者についてはその原因を見極め適応していくための専門的指導を行うことです。

応用心理学会は、研究活動の活性化を図ると共に、「応用心理士」の資格取得者の為に、心の健康の維持増進の方法、各職場における適応と建設的構成員のあり方、不適応の診断と治療に関する講義、演習、実習等、研修のプログラムを設ける必要があるのではないかと考えたことを考えるこの頃です。

(鹿児島大学教育学部長)

## 応用心理学をめぐる諸問題

恩田 彰

私が応用心理学と本格的に出会ったのは、昭和23年東京大学心理学科を卒業し、労働科学研究所に1年間研究生として産業心理学(労働心理学)に産業の現場でふれたことに始まる。当時所長に桐原稜見先生がおられた。ここでの経験が私をして今日まで応用心理学につなげる契機となった。それから東京学芸大学附属中学校の社会科の教師として5年ほどつとめたが、これが後に教育心理学の研究、とくに創造性教育の研究や指導で日本全国をまわる基礎となった。

その後東洋大学で教育心理学を担当することになるが、そこでアメリカ人で精神分析学のバーク、M. 教授に出会い、心理療法(カウンセリング)の指導を受けることで、心理療法(カウンセリング)の研究を行なうようになった。また昭和36年、37年に東洋大学学長佐久間鼎先生を班長として「禅の医学的心理学的研究」(文部省総合研究)に参加することにより「禅と創造性」の研究を行なうようになった。昭和17年に東京高等学校に入り、小保内虎夫先生から心理学の講義を受けることになり、それまで印度哲学か宗教学をやろうと思っていたところ、心理学

が人間の基本的な学問であることを知り、将来心理学とくに宗教心理学を研究したいと思うようになった。この面の研究は禅の心理学的研究において実現する。禅の研究は催眠、自律訓練法、精神分析さらに心理療法(カウンセリング)との関係の究明へと発展していった。創造性研究は、学校における創造性教育の研究と産業における創造性の開発の研究に分けられるが、後者では科学技術者の創造性の開発から始まったが、今日でも研究開発と創造性の開発の研究を続けている。また創造性の測定研究としては、言語式と非言語式の創造性検査を開発した。

私が41年つとめた東洋大学を創立した井上円了は、東京大学の哲学科の出身であるが、独力で欧米の心理学の文献を読み、多くの心理学の著書や論文を残している。また心理学の日常生活への応用を重視し、応用心理学の講義を明治20年から哲学館(東洋大学の前身)で始め、応用心理学の諸分野で開拓している。私は井上の心理学的業績をまとめることで、このことを知って驚いたが、それはちょうど私が東洋大学につとめて、34年目のことであった。

(東洋大学名誉教授)

## 応用心理学の展望

馬場 房子

応用心理学をいろいろな状況における人間行動の研究であると考えますと、研究テーマは、これから、ますます広くなっていくと思われます。すでに日本応用心理学会が発足しましてから半世紀以上の歳月が流れていますが、その間に研究されたテーマを見ても、学会発足当時では全く予測できなかったような状況が生起してありまして、それぞれの状況下での人間行動について研究がなされてきております。

ましてや21世紀を迎えて、われわれをとりまく環境は、ますます複雑になっていくと思われますし、そのような環境のいろいろな状況下での人間行動についての研究の多様性は、十分予測されると思います。また、そのような多様な状況下で人間がどのように行動するのかについての研究を深めていく必要

があると考えます。さらに、それらの研究成果が複雑な環境とどうか、わっていったらよいのかという行動の指針を人々に示すことができればよいと思います。

私自身は、ここ30年余り、組織における人間行動、なかでも働く女性の行動、さらに消費者の行動について研究してきておりますが、これからも変化するであろう状況のなかで働く人々や消費者がどのように行動していくかについて研究を深めていきたいと考えております。そのさい、応用心理学のいろいろな分野の研究成果が非常に参考になりますので、書かれたものはもちろんですが、日本応用心理学会の会員の皆様との交流を通して、知見を広めていくことも大切であると考えます。

これからの複雑な社会で生きていく生身の人間の行動研究は、われわれ応用心理学者に課せられたものであると感じています。(亜細亜大学教授)

## 応用心理士になって

高橋 敷

19 x x 年の春、アンデスで宇宙観測に従事していた私は、TVの臨時ニュースに飛び上がりました。

「ペルー北部山中にUFO状物体が着地、身長2 m 半ばかりの黒っぽい人間状生物が数体、周辺で設営行動をおこしている模様。国警は刺激を避けるため、1 kmの距離をおいて包囲しつつ観察を続けている」

「続報！ 文部大臣声明…… UFOの長い噂が現実であり、文化の歴史輝くインカの地が最初の公式訪問地に選ばれたことに大きい喜びを感じる。……あらゆる方法で平和の意思を伝え官民挙げて心から歓迎したい」

眉にツバつけながら私は興奮した。実はといえばこれは事件の発端、裁判が始まりトウパク・アマル

の名も飛びだす。アナウンサーはまもなく逮捕されTV局は休止された。だけどその間数十分、この国に珍しい宇宙学者は「宇宙人の心の動きと地球人の対応策」を求められて右往左往したのだ。今日につながる役立たぬきっかけかも知れない。

アポロ11号が月に行く時は各国がそれぞれの思いを金銘のメッセージに託した。13号が宇宙に閉じ込められた時の乗務員の心情は議論を超えたものだった。先だつてのリマ人質事件では、元現地教授というので何度か意見も求められて少しも当たらなかった。

いつかもし本当に宇宙人が現れたら！ 応用心理士で宇宙学者の私が会おうと張り切ってるんだけど…… どうせ相手はクローンだからどうということになるのかな？ (小さな談話会や研究会は時々開いています)

(東海学園大教授：文化心理)

## 応用心理士の役割

高橋 哲也

現代社会では、さまざまな資格時代というようになっています。心理学の領域でもいくつかの学会が心理学を専攻した者に認定資格をしております。そこで、応用心理士については、なにをすべきかであります。これにはまだ諸問題が多くあります。一例を述べますと資質と役割は次の通りですが、これには、多くの諸問題が山積されているのが現状であります。・学校教育・企業、産業・医療・社会・家庭・矯正・地域、等で、多くの分野にひろがっています。これに対応するには心理学専攻者、心理学に関係している人達が対応しなければならないというのであります。

この対応には応用心理士が積極的に諸問題解決に

努力をしなければならないと思うのであります。

このところ特に問題となっております学校教育問題「いじめ・不登校・自殺・薬物使用」等が大きな社会問題を起こしております。

企業（産業）ではリストラ・メンタルヘルスなど社会問題となっております。

・福祉では障害者と老人について、・家庭中では、人間関係「ホームレス」家庭内での親子の不一致による問題等、多くあります。

これはほんの一例にすぎません。これらを一つ一つに対応をし、解決していくには応用心理士の分野でもあります。そして、役割だと思うのであります。

今後は、応用心理学の立場から、人間関係に関する種々の諸問題とかかわり方など考えるなど、応用心理学会として、取り組んで行かなければならないと思うのであります。（社会福祉法人 泉会理事）

---

## 金文字鮮やか

和田 全弘

J R 高円寺駅近くで、心理相談所を5年前から開業している者です。相談室には、人形ケースのガラス前面に入れた「応用心理士」認定証の金文字が、鮮やかに輝いています。ボランティアでなく相談の対価を得て、甘えの許されない場に身を置いていることの意義と責任を感じています。治療には行動療法・催眠・認知行動療法・交流分析等を使っています。自分で言って赤面ものですが、治療実績はなかなか良く、5～15回の面接で50%、半年ほど後の電話による予後調査で残りの半分、合計70%程度のクライアントに満足を頂いています。

以上を喜んで或る所で話したら、某先生に「治れば良い……というものではない」と言われシュンとしてしまいました。と言うのも、私は根っからの専門家ではないからです。心理系の学部では飯が食えないと中退し（当時そう思った）、サラリーマンに都合の良い学部を卒業しました。その後、一企業人

として、国内外の職場を転々と35年間を過ごしました。この間、顔と名前を見知った範囲の知人を、10人以上、自殺という不幸な形で失いました。

2～3年ごとに広範囲に転勤する仕事で知己が多かったこともありますが、10人は決して少ない数ではないと思います。「何とか自分の手で助けたい」と必要に迫られ勉強し実地に試行錯誤したのと、永い社会経験が今役立ってよく治るのだと思います。

わたしは某先生曰くの「治れば良い」と喜ぶばかりでなく、原理原則の探求をしたい……と考え始めました。そのため研究活動もそれなりに進めていて、この2年間で約150人の症状別・性格特性や認知に関するデータを集め解析を行っています。いずれ本学会で発表できればいいなあ……と思っております。

今後より一層、関連の知見や技能を充実したいと思います。学会や懇親会その他で機会があれば、お声を掛けていただければ幸いです。

（中央心理アカデミー）

認定「応用心理士」認定者

(1996年10月～1997年7月)

(認定番号)	(氏名)	(認定番号)	(氏名)	(認定番号)	(氏名)
S-11	中川大倫	65	鈴木由紀生	75	村松玲美
56	小林成光	66	大久保康彦	76	佐伯典彦
57	大坪幸實	67	笹野完二	77	手島茂樹
58	高橋敷	68	玉井寛	78	馬場房子
59	外村近	69	稲本俊輝	79	黒田喜久二
60	長谷俊彦	70	加藤博己	80	高橋たまき
61	大瀧法子	71	加藤基子	81	小林幹児
62	林潔	72	牧野勝	82	平野馨
63	飯田穎男	73	菊池清勝	83	神作博
64	斎藤永子	74	深田高一		(以上 29名)

下記の方は退会のため認定「応用心理士」の資格が失効しました (1997年4月1日)。

(認定番号) (氏名)

5 長澤哲史

(以上 1名)

【事務局より】

平成7年6月に、本学会認定「応用心理士」認定制度が開始されて、早くも2年が経ちました。この間に名誉会員の先生方を含め、95名の会員が「応用心理士」の資格を取得されました。

そこで、本年も多くの会員の方々に認定「応用心理士」の資格を取得していただき、この資格の普及を図りたいと考えております。ぜひこの機会に、資格申請の手続きをお取りくださいますようお願い申し上げます。

資格申請をなされる場合は、「資格申請の手引き」および「申請書類」を認定「応用心理士」事務局へ請求してください。本学会会員の方は、送料(270円切手)を添えてご請求ください。会員以外の方は、500円必要です。

なお、認定「応用心理士」の資格を取得されますと、認定証(ケース入り)と証明カードが交付されます。また、本学会機関誌『応用心理学研究』と応用心理士ニュースレターに氏名が掲載されます。

認定「応用心理士」の認定証は、本学会会員である間は有効で、履歴書等にその所持を記載することができます。

◆資料請求先

〒161 東京都新宿区下落合1-7-7

富士短期大学応用心理学研究室内 「応用心理士」事務局